

—物の見方、考え方—
経営に生かす仏教哲学

青木伸雄

1. まえがき

縁があって、日本エレクトロヒートセンターの前身の日本電熱協会の創立10周年記念大会で講演をさせていただいた。その時の内容は、世の中を変える「最先端三大技術」のことで、

- 1) 魔法の熱源として「アトミックエナジー」。
- 2) 魔法の生命といわれる「バイオテクノロジー」関連技術。
- 3) 魔法の頭脳である「コンピューター」関連技術。

等について述べた。

あれから10数年たってしまった。技術の進歩は実にめざましい。これからの経営者や管理者は「百不知、百不会」では部下とのコミュニケーションがとれない、常に、向上の為の勉強と努力が必要であると考ええる。仏教の世界にも「良寛和尚」の教えがある。それは「仏教学者の話を聞くと、雄弁、流水の如くさわやかだ。五時、八教の難しい教えも並ぶものがなき説法で、自ら学者と称して人も学者と認めている。だが本来の事について問えば、何もわからぬおろか者よ」と述べられて、謙虚に勉学修行、「我以外皆法身」いわゆる自分以外は皆師（法身）だと説いている。

原文は「嗟見講經人、雄弁如流水、五時與八教、説得眞無比、自稱為有識、諸人皆作是、却問本來事、一箇不能使」と漢字で書かれている。

仏教は奥深く実にむずかしいが、学べば学ぶ程、教えられることが多い。

今回も、浅学非才をかえりみず、人生は「四苦八苦」の世界であることや「中道」の考え方で、倫理なき現在社会に、力強く生き残れる「物の見方、考え方」をさぐることにする。

著者：広島大学生物生産学部講師
元近畿大学産業理工学部客員教授
日本禅画家協会名誉理事
中国少林書画院名誉教授
法号位 法印 禅画位 奥伝
青木伸雄
(野風生)
雅号 樹泉

2. 聞思修慧の教え

仏教に三慧、いわゆる「聞慧」、「思慧」、「修慧」という教えがある。

中国、唐（西暦618～907）の玄奘三蔵（法相宗、俱舎宗の開祖、三蔵法師）訳の「聞思修所成妙慧」によると、聞とは、教えを聴聞して得る知慧をさし、思とは、これを思惟して自ら得る知慧であり、修とは、実践修行して得る知慧をさし、聞思修慧（三慧）といって人間社会の不可欠な知慧としている。

いわゆる、人々にヒヤリング能力とコミュニケーション能力の重要性をといていると同時に、チャレンジすることを重要な生きる知慧と教えている。

最近では経営者や管理者に効率優先で相手の立場を考えない一方通行のEメール的人間が増えてきているが、Eメールは、いうまでもなく相手の立場に関係なく（出張、不在、多忙、病気等）送信される。

そして、「連絡していた、返事が無いので了解済と思った」で全く、コミュニケーションがとれない、変な効率優先の考えがトラブルをおこしている。

ところが、この「三慧」の基本の叡智、コミュニケーションについて、カルロス・ゴーン氏が日産自動車の社長兼CEO当時出版された「カルロス・ゴーン経営を語る」という本のなかで、フォルクス・ワーゲンのフェルディナンド・ピエヒ会長の「駄馬と駄馬を駆け合わせても、競走馬にはならない」という言葉を引用して「弱小連合」が力を発揮する為には、「成果」と「透明性」を述べて、あらゆる経営の分野にコミュニケーションの重要性を述べているのを知った時、効率優先、コストカッターの異名をとる経営者に「聞思修」の教えを再び教えられたのである。

3. 四聖諦（四諦）とは

釈迦が説いた人間社会における「四つの真理」のことが四聖諦である、仏教では一般に「諦」とは真理を意味している。その四諦とは

- 1) 苦諦…「苦しみとは何か」、人生は苦である。いわゆる苦悩に関する真理。
- 2) 集諦…「苦しみは何故おこるのか」、いわゆる苦悩の原因に関する真理。
- 3) 滅諦…「苦しみの克服とは」、いわゆる苦悩の原因の克服に関する真理。
- 4) 道諦…「苦しみを克服する道とは」、いわゆる苦悩を克服し悟りに達する方法に関する真理とは何か。